

四條畷鳥獣保護区

指定調査報告書

平成 20 年度

大阪府

1 鳥獣保護区の概要

(1) 鳥獣保護区の名称

四條畷鳥獣保護区

(2) 鳥獣保護区の区域

四條畷市と大東市、奈良県との境界線の接点を起点とし、同点から四條畷市と大東市との境界線を北進し、大阪府砂防設備神社谷砂溜工（整理番号 22-01）に至る。大阪府砂防設備神社谷砂溜工（整理番号 22-01）から四條畷神社の敷地西端に沿って北進し、市道南野 9 号線との交点に至る。同点から市道南野 9 号線を北進し、市道南野 2 丁目 17 号線との交点に至る。同点から市道南野 2 丁目 17 号線を北進し、権現川との交点に至る。同点から権現川を東進し、御机橋との交点に至る。同点から御机橋を北進し、市道南野 8 号線との交点に至る。同点から市道南野 8 号線を西進し、市道南野清滝 2 号線との交点に至る。同点から市道南野清滝 2 号線を北進し、国道 163 号線との交点に至る。同点から国道 163 号線を東進し、清滝橋北詰先の市道清滝下田原線との交点に至る。同点から市道清滝下田原線を東進し、讃良川との最北の交点に至る。同点から讃良川を北進し、大阪府砂防設備讃良川砂溜工（整理番号 18-04）に至る。大阪府砂防設備讃良川砂溜工（整理番号 18-04）から北に直線で四條畷市と交野市との境界線の交点に至る。同点から四條畷市と交野市との境界線を東進し、奈良県と四條畷市との境界線との交点に至る。同点から奈良県と四條畷市との境界線を南進し、国道 163 号線との交点に至る。同点から国道 163 号線を西進し、市道田原中央線との交点に至る。同点から市道田原中央線を南進し、市道大谷地線との交点に至る。同点から市道大谷地線を西進し、府道中垣内南田原線との交点に至る。同点から府道中垣内南田原線を西進し、府道大阪生駒線との交点に至る。同点から府道大阪生駒線を東進し、奈良県と四條畷市との境界線との交点に至る。同点から奈良県と四條畷市との境界線を南進し、起点に至る線で囲まれた区域。

(3) 鳥獣保護区の存続期間

平成 21 年 1 月 1 日から平成 31 年 10 月 31 日まで（10 年間）

(4) 鳥獣保護区の指定区分

森林鳥獣生息地の保護区

(5) 鳥獣保護区の指定目的

当該地区は、奈良県と境を接する大阪府の東部にある四條畷市の中・東部、生駒山系の北部に位置し、東側は生駒山地主稜線を挟んで奈良県と接する山林地帯、西側には飯盛山がそびえ、北には河内と大和を繋ぐ清滝街道が通っている。

当該地区を含む四條畷市は、全域が銃器を対象とする特定猟具使用禁止区域（面積約 1,874ha）に指定されている。本地域は、生駒山系沿い北側に交野鳥獣保護区（面積約 1,030ha）、南側に生駒山鳥獣保護区（面積約 2,100ha）に挟まれており、鳥獣保護区として一体的に保護を図る上で重要な地域となっている。

また、当該地区の東部を除く範囲は金剛生駒紀泉国定公園に指定されており、自然環境の保全上も重要な地域となっている。

当該地域は、コナラ、クヌギ等の落葉広葉樹林を主体とした複雑に入り組んだ山地地形と室池によって形成される水辺環境が複合的に存在する環境である。生駒山地主稜線の西に多くの谷が形成されており、奈良朝時代にこれらの谷をせき止めて築造された新池、古池、中ヶ池、砂溜池の 4 池を総称した室池があり、野生鳥獣の生息地として重要な拠点となっている。

室池周辺は、金剛生駒紀泉国定公園に指定されると共に、府民の森緑の文化園むろいけ園地として整備されている。木道、遊歩道などのハイキングコースや自然観察、スポーツ、リクリエーション、セミナー、宿泊施設があり、自然リクリエーションゾーンとして府民に開放されている。

これらのことから、当該地区は鳥獣の生息のため重要な地区であることが認められ、更に周辺地域の鳥獣保護区の指定状況および自然レクリエーションゾーンとしての利用状況を勘案し、鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律第 28 条第 1 項に規定する鳥獣保護区に指定し、当該地域に生息する鳥獣の保護を図るものである。

2 鳥獣保護区の保護に関する指針

(1) 保護管理方針

当該地区における野生鳥獣の生息状況、生息環境を把握するため、鳥獣保護員や NPO 等による野生鳥獣の生息状況調査を実施し、科学的データの収集・蓄積に努め、今後の保護管理に反映させる。

鳥獣保護員や行政職員による巡視や警察と連携したメジロ等の密猟の取締りを実施するとともに、鳥獣保護区の境界を明示する標識を設置するなど鳥獣保護区の適切な管理に努める。

イノシシ等による農作物被害の発生に対しては、大阪府イノシシ保護管理計画に基づき、有害鳥獣の捕獲等による保護管理を行う。

行政機関や NPO 等と連携し、野鳥観察など人と野生鳥獣との触れ合いの場や自然環境学習の場として学校教育等に積極的に活用されるよう普及啓発に努める。

3 鳥獣保護区の区域に編入しようとする土地の地目別面積及び水面の面積

ア 形態別内訳

林 野	7 2 0 ha	6 9 . 2 %
農耕地	4 6 ha	4 . 4 %
水 面	2 2 ha	2 . 1 %
その他	2 5 3 ha	2 4 . 3 %

イ 所有者別内訳

国有地	2 3 ha						
国有林	林野庁所轄	0 ha	制限林	ha	保安林	ha	
		0 ha		普通林		ha	砂防指定地
		0 ha				ha	
国有林以外の国有地 (所管省庁別に記載)			国土交通省	2 3 ha			
地方公共団体有地	9 7 ha		都道府県有地	4 5 ha			
			市町村有地	5 2 ha			
私有地等	8 9 9 ha						
公有水面	2 2 ha						

ウ 他の法令 (条例を含む) による規制区域

自然環境保全法による地域	0 ha		
自然公園法による地域	7 2 4 ha	特別保護地区	0 ha
(金剛生駒紀泉国定公園)		特別地域	7 2 4 ha
		普通地域	0 ha
文化財保護法による地域	9 1 ha		
(埋蔵文化財)			

(※) 上記の内容は当該区域の土地利用現況の調査を目的とした大阪府都市計画基礎調査データ等の利用に基づく。そのため引用データの違いにより生じる誤差等は考慮しない。

4 指定区域における鳥獣の生息状況

(1) 当該地域の概要

ア 鳥獣保護区の位置

当該地区は、奈良県と境を接する大阪府東部にある四條畷市の中・東部に位置する。

イ 地形、地質等

当該地区は、地形的には生駒山系の北部に位置し、東側は生駒山地主稜線を挟んで奈良県と接する山林地帯、西側には飯盛山がそびえ、北には河内と大和を繋ぐ清滝街道が通っている。生駒山地主稜線の西に多くの谷が形成されており、奈良朝時代にこれらの谷をせき止めて築造された室池がある。室池は新池、古池、中ヶ池、砂溜池の4池を総称したものであり、これらの池に蓄えられた水は、四條畷市を中心として灌漑用水、上水として利用されている。

当該地区の表層地質は、ほとんどが花崗岩質岩石で構成されている。表層は風化を受けてマサ土状となっているところがあり、一部では採土されている。

ウ 植物相の概要

室池の周辺部、稜線部はコナラ、クヌギが多く、一部にアカマツが混じる。谷筋の一部にスギ植林が分布する。その他はソヨゴ、アラカシ等の照葉樹、ヤシヤブシ、モミジ類等の落葉樹、ササ類等の植生で構成されている。

室池には、環境省レッドリスト記載種である水生植物のオニバス、トチカガミや抽水植物のタコノアシ、ミクリなど、大阪府レッドデータブック記載種である水生植物のジュンサイ、コウホネや湿生植物のハンゲショウ、モウセンゴケなどの自然保護上重要な植物が生育している。

エ 動物相の概要

府下ではこれまでに約334種の野鳥が記録されている（日本野鳥の会大阪支部「大阪府鳥類目録2001」）が、鳥獣保護区の指定にあたって実施した事前調査では、当該地域にはその約3割に当たる111種の鳥類が確認されている。確認されている鳥類には、オシドリ、トモエガモ、ハチクマ、オオタカ、ハイタカ、サシバ、ハヤブサ、ヨタカ、サンショウクイの環境省レッドリスト記載種9種、カワセミ、アオゲラ、センダイムシクイ、キビタキ、クロジなどの大阪府レッドデータブック記載種38種が含まれており、地域の鳥類の生息環境としての重要性を裏付ける結果となった。

室池を擁するため、カイツブリ目、ペリカン目、コウノトリ目、カモ目、ツル目、チドリ目などの水鳥類が6目7科21種記録された。これは全体の18.9%にあたる。また、当該区域内の林は繁殖期および越冬期、通過時の鳥類にとって、採餌・休息の場所として1年を通じて重要な生息環境となっていると考えられる。

文献では、室池周辺で繁殖の可能性がある種として猛禽類のオオタカ、フクロウが挙げられており、室池周辺が鳥獣にとって多様な生息環境であることを示している。

なお、府民の森緑の文化園むろいけ園地では3年前からフクロウの巣箱を設置して

おり、昨年度には2つの巣箱がフクロウに利用され、数羽のヒナの巣立ちが確認されている。

獣類では、府民の森緑の文化園むろいけ園地でニホンリス、イタチ科の一種、イノシシの3種の獣類が生息していることが確認されている。また、環境省の第6回自然環境保全基礎調査では、当該地域にイノシシ、タヌキ、キツネの3種の記録がある。

(2) 生息する鳥獣類

ア 鳥類

○ (一般的に見られる種)

カワウ、アオサギ、マガモ、カルガモ、キジバト、コゲラ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、シロハラ、ツグミ、ウグイス、エナガ、ヤマガラ、シジュウガラ、メジロ、カワラヒワ、ハシボソガラス、ハシブトガラス

他93種 (別添確認鳥類一覧)

イ 獣類

○ニホンリス、○タヌキ、○キツネ、○イタチ科の一種、○イノシシ

(3) 当該地域の農林水産物の被害状況

四條畷市では、イノシシ(イノブタ)による野菜やイモ類の食害および田畑の畦(あぜ)等の掘り返しの被害が同市から報告されている。

また、アライグマは同市内で平成19年度に1頭捕獲実績があり、それ以降現時点まで捕獲は報告されていないが、アライグマの生息分布拡大による農林業被害や生活環境被害が懸念されるため、引き続き注意する必要がある。

5 利用状況

当該地区には、野外活動の拠点として府民の森緑の文化園むろいけ園地、四條畷市立野外活動センター、寝屋川市野外活動センターの3つの公共施設があり、近隣地域の住民や府民に広く利用されている。

府民の森緑の文化園むろいけ園地は、年間約40万人の来園者数があり、園内の緑の工作館で開催されている自然観察や自然工作などの野外活動には年間約1,500人が参加している。そのほかに団体を対象としたガイドウォーク(参加人数:約1,500人/年)、地域の小・中学生を対象とした里山わくわく教室(参加人数:約3,000人/年)が開催され、室池およびその周辺の水辺自然園や森の宝島を中心に自然観察や環境学習の場として利用している。

四條畷市立野外活動センターは、年間約5,000人の施設利用がある。キャンプ活動をはじめ、工作、自然観察、天体観測などのイベント(参加人数:約1,000人/年)が開催され、施設のキャンプ場を中心に東側に隣接する四條畷市ふれあいの森や堂尾池ビオトープを利用している。

寝屋川市野外活動センターは、年間約2万人の施設利用がある。昆虫観察などの自

然観察や自然工作、林業体験(しいたけづくり、きこり体験)、キャンプなどのイベント(約1,000人/年)が開催され、施設を中心に北東側の山林や寒谷池を利用している。

そのほかに緑の文化園では、日本野鳥の会大阪支部の定例探鳥会が約月1回の頻度で開催されている。

(別添)

表 1 確認鳥類一覧 1 / 3

No.	目	科	種名	生息地位	文献1	文献2	文献3	現地調査	主な記録	環境省RL	大阪府RDB
1	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	留鳥	○	○	○				
2			ハジロカイツブリ	冬鳥	○				1999.11.27		
3	ペリカン	ウ	カワウ	留鳥	○	○	○	○			要注目
4	コウノトリ	サギ	ゴイサギ	留鳥	○				1973.-1990.		
5			アマサギ	夏鳥 (一部旅鳥)	○				1982.6.20		
6			ユサギ	留鳥	○				1997.		
7			アオサギ	留鳥	○	○	○	○			
8	カモ	カモ	オシドリ	冬鳥	○	○	○	○		DD	要注目
9			マガモ	冬鳥	○	○	○	○			
10			カルガモ	留鳥	○	○	○	○			
11			コガモ	冬鳥	○	○	○	○			
12			トモエガモ	冬鳥	○	○			2000.2.26	VU	準絶滅危惧
13			ヨシガモ	冬鳥	○		○	○			
14			オナガガモ	冬鳥	○				1996.12.		
15			ホシハジロ	冬鳥	○		○				
16			キンクロハジロ	冬鳥	○	○	○				
17	タカ	タカ	ハチクマ	夏鳥	○	○	○			NT	絶滅危惧Ⅱ類
18			トビ	留鳥	○		○				
19			オオタカ	留鳥	○	○	○			NT	絶滅危惧Ⅱ類
20			ツミ	留鳥	○				1994.10.		絶滅危惧Ⅱ類
21			ハイタカ	冬鳥	○	○	○			NT	要注目
22			ノスリ	冬鳥	○	○	○				要注目
23			サシバ	夏鳥	○	○	○			VU	準絶滅危惧
24		ハヤブサ	ハヤブサ	留鳥	○				1993.3.	VU	要注目
25			チョウゲンボウ	冬鳥	○				1998.3.		準絶滅危惧
26	キジ	キジ	ヤマドリ	留鳥	○		○				準絶滅危惧
27			キジ	留鳥	○	○	○				
28	ツル	クイナ	バン	留鳥	○	○	○				
29			オオバン	留鳥	○	○			2000.3.		準絶滅危惧
30	チドリ	チドリ	イカルチドリ	留鳥	○				1973.-1990.		絶滅危惧Ⅱ類
31		シギ	イソシギ	留鳥	○				1997.		準絶滅危惧
32			ヤマシギ	冬鳥	○				1999.3.		準絶滅危惧
33	ハト	ハト	キジバト	留鳥	○	○	○	○			
34			アオバト	留鳥	○	○			1999.12.		要注目
35	カッコウ	カッコウ	ジュウイチ	旅鳥	○	○					
36			カッコウ	夏鳥	○				1999.5.22		情報不足
37			ツツドリ	夏鳥	○	○			1997.5.		準絶滅危惧
38			ホトトギス	夏鳥	○	○	○				準絶滅危惧
39	フクロウ	フクロウ	フクロウ	留鳥	○				1999.3.		絶滅危惧Ⅱ類
40	ヨタカ	ヨタカ	ヨタカ	夏鳥	○				1973.-1990.	VU	絶滅危惧Ⅱ類
41	アマツバメ	アマツバメ	ハリオアマツバメ	旅鳥	○				1973.-1990.		
42			アマツバメ	旅鳥	○				1992.		
43	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ	留鳥	○	○	○				準絶滅危惧
44	キツツキ	キツツキ	アオゲラ	留鳥	○	○	○				準絶滅危惧
45			アカゲラ	冬鳥	○		○				要注目
46			コゲラ	留鳥	○	○	○	○			
47	スズメ	ヒバリ	ヒバリ	留鳥	○				1997.4.		
48		ツバメ	ツバメ	夏鳥	○	○	○				
49			コシアカツバメ	夏鳥	○	○	○				
50		セキレイ	セキレイ	留鳥	○	○	○				

環境省 RL カテゴリー

(環境省 RL は、平成 18 年 12 月に発表された「鳥類、昆虫類、両生類及びその他無脊椎動物のレッドリストの見直しについて」に基づいた)

CR: 絶滅危惧ⅠA類 EN: 絶滅危惧ⅠB類

VU: 絶滅危惧Ⅱ類 NT: 準絶滅危惧

DD: 情報不足

表 1 確認鳥類一覧 2 / 3

No.	目	科	種名	生息地位	文献1	文献2	文献3	現地調査	主な記録	環境省RL	大阪府RDB		
51	スズメ		ハクセキレイ	留鳥	○	○	○						
52			セグロセキレイ	留鳥	○	○	○	○					
53			ビンズイ	冬鳥	○					1997.			
54			サンショウクイ	サンショウクイ	夏鳥	○				1999.4.24	VU	絶滅危惧Ⅱ類	
55			ヒヨドリ	ヒヨドリ	留鳥	○	○	○	○				
56			モズ	モズ	留鳥	○	○	○					
57			レンジャク	ヒレンジャク	冬鳥	○				1992.			
58			ミソサザイ	ミソサザイ	留鳥	○				1997.		絶滅危惧Ⅱ類	
59			イフヒバリ	カヤクグリ	冬鳥	○		○					
60			ツグミ	コマドリ	旅鳥	○	○						
61				コルリ	旅鳥 (一部夏鳥)	○				1998.		要注目	
62				ルリビタキ	冬鳥	○	○	○					
63				ジョウビタキ	冬鳥	○	○	○					
64				トラツグミ	冬鳥 (一部留鳥)	○	○	○				絶滅危惧Ⅱ類	
65				マミジロ	旅鳥	○				1995.5.			
66				クロツグミ	夏鳥	○				1999.10.23		絶滅危惧Ⅱ類	
67				アカハラ	旅鳥 (一部冬鳥)	○	○			2000.3.			
68				シロハラ	冬鳥	○	○	○	○				
69				マミチャジナイ	旅鳥	○				1999.10.23			
70				ツグミ	冬鳥	○	○	○	○				
71			ウグイス	ヤブサメ	夏鳥	○	○	○					
72				ウグイス	留鳥	○	○	○	○				
73				コヨシキリ	旅鳥	○					1995.4.		
74				メボソムシクイ	旅鳥 (一部夏鳥)	○			○				
75				エゾムシクイ	旅鳥	○	○	○					
76				センダイムシクイ	夏鳥	○	○	○					準絶滅危惧
77				クイタダキ	冬鳥	○	○	○					
78			ヒタキ	キビタキ	夏鳥	○	○	○					準絶滅危惧
79				ムギマキ	旅鳥	○					1999.10.23		
80				オジロビタキ	冬鳥	○					1996.10.		
81				オオルリ	夏鳥	○	○	○					準絶滅危惧
82				サメビタキ	旅鳥	○					1996.		
83				エゾビタキ	旅鳥	○			○				
84				コサメビタキ	旅鳥 (一部夏鳥)	○					1998.		情報不足
85			カササギヒタキ	サンコウチョウ	夏鳥	○				1990.6.		準絶滅危惧	
86			エナガ	エナガ	留鳥	○	○	○	○				
87			シジュウカラ	コガラ	冬鳥 (一部留鳥)			○		2000.1.8			準絶滅危惧
88				ヒガラ	留鳥	○	○	○					
89				ヤマガラ	留鳥	○	○	○	○				
90				シジュウカラ	留鳥	○	○	○	○				
91			ゴジュウカラ	ゴジュウカラ	留鳥	○				1996.12.		絶滅危惧Ⅱ類	
92			メジロ	メジロ	留鳥	○	○	○	○				
93			ホオジロ	ホオジロ	留鳥	○	○	○					
94				カシラダカ	冬鳥	○	○	○					
95				ミヤマホオジロ	冬鳥	○	○	○					
96				アオジ	冬鳥	○	○	○					
97				クロジ	冬鳥	○		○					準絶滅危惧

環境省 RL カテゴリー

(環境省 RL は、平成 18 年 12 月に発表された「鳥類、昆虫類、両生類及びその他無脊椎動物のレッドリストの見直しについて」に基づいた)

CR: 絶滅危惧ⅠA類 EN: 絶滅危惧ⅠB類

VU: 絶滅危惧Ⅱ類 NT: 準絶滅危惧

DD: 情報不足

表 1 確認鳥類一覧 3 / 3

No.	目	科	種名	生息地位	文献 1	文献 2	文献 3	現地 調査	主な記録	環境省RL	大阪府RDB	
98	スズメ	アトリ	アトリ	冬鳥	○	○	○					
99			カワラヒワ	留鳥 (一部冬鳥)	○	○	○	○				
100			マヒワ	冬鳥		○	○		2004.3.7			
101			ベニマシコ	冬鳥	○	○	○					
102			ウソ	冬鳥	○	○	○					
103			イカル	留鳥 (一部冬鳥)	○	○	○					
104				シメ	冬鳥	○	○	○				
105			ハタオリドリ	スズメ	留鳥	○	○	○				
106			ムクドリ	コムクドリ	留鳥	○				1973.-1990.		
107				ムクドリ	留鳥	○	○			2000.2.		
108			カラス	カケス	留鳥	○	○			1999.4.4		
109		ハシボソガラス	留鳥	○	○	○	○					
110		ハシブトガラス	留鳥	○	○	○	○					
111	キジ	キジ	コジュケイ	留鳥	○	○	○					
記録種数					109	69	68	19	-	9	38	

環境省 RL カテゴリー

(環境省 RL は、平成 18 年 12 月に発表された「鳥類、昆虫類、両生類及びその他無脊椎動物のレッドリストの見直しについて」に基づいた)

CR: 絶滅危惧 I A 類 EN: 絶滅危惧 I B 類

VU: 絶滅危惧 II 類 NT: 準絶滅危惧

DD: 情報不足

文献 1 : 大阪府 平成 11 年度鳥獣保護区設定調査「むろいけ」調査報告書

文献 2 : (財)大阪府みどり公社

府民の森「自然体験学習プログラム集 園地別データ集」

文献 3 : 日本野鳥の会大阪支部「緑の文化園」定例探鳥会記録

(2003.1~2005.12)

現地調査 : 平成 17 年度に実施